

日吉台地下壕保存の会

会報

第10号

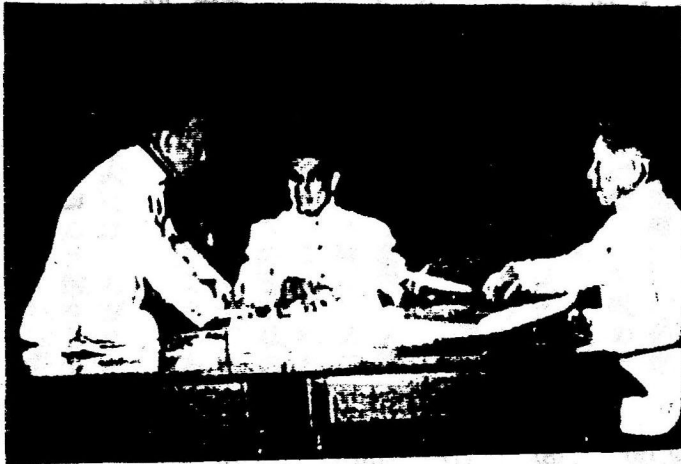
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 045-562-1282 (寺田貞治方)



地下壕の作戦室で作戦会議を再現 (1983NHK)
 左が長官 (西村晃氏)、中 (中島親孝氏) と
 右 (伊東三郎氏) が参謀

目次	頁
○第3回総会を迎えるに 当たって	1
○お知らせ 第3回総会	2
○お願い	2
○第7回幹事会報告	3
○地下壕を見学して	4
○「平和への願いをこめて」 読後感想文	4
○本の紹介「地下工場と 朝鮮人強制連行」	4
○関連図書紹介	5
○編集後記	6

第三回総会△云々を迎えるに
 当りたつて

事務局長 寺田貞治

保存の会が結成されて、早くも二年の歳月が流れ、第三回総会を迎えることになりました。この間、世界は東西の冷戦が終わり、ベルリンの壁もなくなり、平和がやってくるかみえ、世界中の人々が期待をふくらませていた矢先、この期待をあざ笑うかのよう、この戦争はいつたいた私たち人間に何をもちたのでしようか。20万人とも言われる人々が死にました。前線で戦い傷つき死んだ人の多くは、貧しい人達でした。イラクでは、まだ内戦が続き、水・食料・医薬品が不足し、毎日多くの人が死んでいくと言われます。またクウェートでは六〇〇本もの油井が破壊されて炎上し大気が汚染され、ペルシャ湾では流れ出た原油で海が汚染され、環境破壊が深刻です。戦争は、最大の資源のムダ使いであり、環境破壊の最たるものでしかありません。

このような戦争をみるにつけ、私達の運動が、ますます必要であることが痛感させられます。会員も三・八名となり、活動も徐々に広がりを見せ、港北区では1991年度の事業計画の中に地下壕の事も入っており、少しづつ前進をしています。保存・公開にむけて、これからも息長く続け、大きく輪を広げて行かなければなりません。第3回総会には、「松代大本営」のビデオ上映と「謀略秘密基地・登戸研究所の謎を追う」のテーマで記念講演を企画しました。多数の方々の御参加で総会を成功させたいと思っています。宜しくお願い致します。



「お知らせ」

第三回

総会

〇日時

四月二〇日(土)

午後2時より

(受付は午後1時50分より)

〇場所

慶應大学日吉キャンパス

藤山記念館大会議室

〇△次第

一、ビデオ

「松代大本営」の上映

* 午後2時~5時半

二、総会

* 午後2時40分~

3時40分

1、開会の辞

2、会長挨拶

3、議長選出

4、議事

①一九九〇年度活動報告

②一九九〇年度会計報告

③一九九〇年度会計監査報告

④①②③の報告について

質疑応答及び承認

⑤一九九一年度運営委員

・会計監査・顧問の選

出と承認

⑥一九九一年度活動方針

案説明

⑦一九九一年度予算案

説明

⑧⑥⑦の案について

質疑応答及び承認

⑨新会長挨拶

⑩アッピールの採択と承認

⑪その他

⑫議長解任

⑬閉会の辞

三、記念講演

「謀略秘密基地」

登戸研究所の謎を追う

講師：法政二高教諭

渡辺賢二氏

* 午後3時40分~5時

〇お願い

総会には、多数の方々の御参加をお願い致します。

ビデオ「松代大本営」とは

広島、長崎、沖縄・・・

そして、ここ長野県松代にも

残る、戦争の傷跡。

おい隠された歴史的事実を

明らかにし、松代の持つ意味

を問う。

大本営とは？

地下壕13キロは誰が掘り

抜いたか？

強制連行にたずさわった人

強制労働をさせられた朝鮮人

など、衝撃の証言が・・・

「謀略秘密基地」

登戸研究所とは

第二次大戦中、「風船爆弾」

や細菌・化学兵器、偽札造り

など旧日本軍の謀略戦を研究

したとされる「陸軍第九技術

研究所」であった。

その内容はまだ不明な点が多

く、細菌戦部隊として知ら

れる七三一部隊との関係も指

摘されている。この研究所に

どんな驚くべき事実が隠され

ているのだろうか・・・

第7回紛争中争△△出版出口日時 2月20日午後5時半
場所 藤山記念館中会議室
報告事項
事務局長より

1. 会員数 308名

(2月19日現在)

団体会員 1組

賛助会員 4名

2. 1月24日：会報第9号発行。

3. 1月27日：幸市ヶ谷集会所で、小園さんと一緒に李さんと兵庫県で朝鮮人問題に取り組んでいる洪さんと会って話を聞いた。

4. 1月30日：区政推進課の川久保さんにあつて、区や市の今後の地下壕の保存についての対応を聞く。話によると、区では出来たとしても記録の保存ぐらいである。地下壕を保存するかどうかの調査までですとなると、予算的にみて市の事業となるが、今のところ当分無理ではないかと思う、との事であった。
やはり、これ以上は世論の力で、市に働きかけをす

る以外に手はなさそうであると感じた。先ず、保存会として市長に陳情する。次に市長と市議会議長宛の請願書を作り、署名運動をする。署名簿と共に請願書を市長と市議会議長に提出する。また、港北区選出の市会議員に超党派で支援して頂くように働きかける。

目的達成までには、かなり長い期間運動を続けなければならぬが、戦後50年目を目標にして運動を盛り上げていったらどうかと思う。

5. 2月12日：区の社会教育課の広木氏と篠総務局の中谷氏に会い、区主催の日吉周辺の史跡めぐりの一環として、地下壕の見学をしたいという事で話し合った。3月19日(火)に下見、4月14日(日)に実施。

6. 2月15日：足立氏宅に挨拶に行く。地下壕入口の地主の方より、先生に「地主さんに頼んで地下壕に入つて、その感想文を書いてくるように」言われたとい

つて、小学生が10人ほど来たので断わって返したが、こんな事が度重なるようでは、今後入るのを全面的にお断りすると強く言われた。

7. 3月9日：日吉台小学校PTAと教職員約30名が地下壕を見学予定。

議事

1. 第3回総会について

1) 日時：4月20日

午後2時～2時半

日吉台地下壕や松代の地下壕を見せる

午後2時40分

3時40分 総会

午後3時40分

5時

謀略秘密基地；登戸研究所についての講演

2) 役員候補者の人選

3) 総会の進め方

2. 議題について

○保存会として先ず市長に

地下壕の保存について陳

情書を提出する件

○地下壕の保存と公開にむ

けて署名活動を実施し、

市長と市議会議長に対し

て、署名簿と請願書を提

出する件

○港北区選出の区会議員に

働きかける件

○総会アツピールの採択

○その他

3. 今後の活動について

見学会：日吉台地下壕

又は他の地下壕の見学会

4. パンフレットの発行

について

5. 会報第9号について

6. 会報第10号の発行

について・・・3月末

7. 次回運営委員会

4月10日5時半



地下壕を

見学して

島本 広海

3月9日(土)には、聯合艦隊司令部跡をなどを見学させて下さいまして有難うございました。寺田先生がよく調査され、またいろいろと御努力下さって、保存の事業に大きな足跡を刻んでおられることに對し、感銘を深く致しました。旧海軍関係者として深く御礼申し上げる次第です。

私は、昔の海軍兵学校七三期生で、レイテ海戦の時は海軍少尉、昭和一九年一〇月二四日栗田艦隊に従軍してフィリッピン人のシジヤン海を東進した時のことを思い出しました。余りの空襲の激しさを避ける為と、敵の目をくらす為に、一時、西の方に避退の報告と了承を求め、豊田聯合艦隊司令部に上申した栗田中将宛の電報に對して、豊田司令官は「天佑を確信し、全軍突撃せよ」という非情ともいえる厳しい内容の電報を送って来ました。

あの時の情景を思い浮かべ

ながら、司令部跡を見学させて貰いました。栗田艦隊も豊田司令官も必死でした。当時の海軍の覚悟が滲み出ていた場面でした。そのような場面が記憶に鮮明に残っておりますので、壕の中を眼を皿のようにして眺め廻しました。

是非とも歴史の大事な記録として保存し、広く後世の人々が見学できるように残してやりたいものと思えます。

寺田先生始め、関係者の皆様方の御努力に對しまして、厚く厚く御礼申し上げます。



△読後感想文

「平和への願いをこめて」

(慶應義塾生協発行)

二〇〇円)

聴講生として、慶應三田キャンパスに通うようになり、生協書籍部へ立ち入り出来るようになりましたが、「平和への願いをこめて」が人の目につきにくい所に置いてあった為、今まで気がつきませんでした。

日本橋久松町で昭和二〇年三月一〇日東京大空襲に合い命からがら火の輪の中を逃げた者として忘れる事のない思いますが、現代の人達には絶対わからない事と口を閉じていましたが、やはり二度と戦争を起ささない為には、体験者が語り継いで行かなければと思います。日吉の地下の事などはつきり記録されていて、非常に興味深く拝読させて頂きました。

もっともつと若い人達に知って頂けるよう、益々のご活躍を心から祈ります。

費田ひろ子

△本の紹介

「地下工場と朝鮮人強制連行」

(兵庫県朝鮮関係研究)

会編・明石書店刊・

二〇六〇円)

朝鮮と日本との関係、特に戦時下の朝鮮人と日本人(日本政府)との歴史を知れば知るほど、胸がふさがれて、私はまともに朝鮮の友人の前に立てなくなる。

日吉の地下壕に入り、真っ暗闇の中で建設犠牲者への冥福を祈った瞬間、しじまの中から彼らの声にならない叫びが迫ってくるようで、いたたまれない気持ちに駆られた。

そんな折、この本の出版を知った。先ず驚いたのは、戦後三〇年も経ってから、やっと調査した建設省の発表によると、全国に残っていた地下トンネルの数は、既に崩壊してしまつたものや、埋め戻されてしまつたものを除いても、三三九四箇所もあり、そのうち神奈川県内に一二九六箇所ざつと三分の一強が残っているということだった。

地下トンネルの建設は、国内では、一九四四年七月一八日、東条内閣の最後の閣議で決定されたという。サイパン・テニアン・グアムを奪われ、本土への帰還が決定的になった時期である。建設開始は、私たち足手まといとなる子供たち（私はその該当者だった）を地方に追いやる（集団疎開させる）時期とも重なっている。

天皇の住居（御座所と称された）を含む松代の大本営工事も、ここ日吉の海軍司令部も同時期に着工された。陸・海軍ばかりでなく、工場（主として航空機生産の）疎開による地下工場の建設が、全国各地で一斉に始まった。

既に戦争は敗退を重ね、老年兵まで戦場に駆り出される状況の中、軍の命令によるトンネル掘りは、民間の建設業者の労務員のほかに、動員された学徒や連行されてきた朝鮮人に頼らざるを得なかった。緊急、しかも短時日での完成を要求される工事は、危険が

満ち満ちていたが、その最前線になつていったのは、どの現場でも朝鮮人だった。まともな食事も与えられない（日吉周辺の聞き書きでも、ボロをまとつた朝鮮人が、農家にそつと食べ物乞いに来たという）中での、命がけの労働は、筆舌を尽くしがたいものがあった。調査を進める過程で、四二年ぶりに初めて入った、兵庫県六甲山系の東側、若屋に近い甲陽園山王町の地下トンネルの壁に、敗戦の日に刻まれたのであろう、「朝鮮国独立」の文字を発見した時、人々は思わず息をのんだという。私にとつても胸突かれる記録であった。

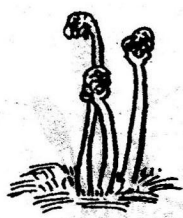
本の内容は、1 概説、2 現地調査の記録、3 資料の三部構成になっているが、私たちがこれから日吉の地下壕の掘りおこしをしていく上でも参考になる部分がたくさんある。

神奈川県内には、おびただしい数のトンネルが散在しているという。にもかかわらず、

近頃やっと日吉の地下壕が少しずつ陽の目を見せてきた他は、ほとんど手つかずのまま放置されているのではなからうか。

川崎の市民達が調べあげた「私の街から戦争が見えた！ 謀略秘密基地・登り戸研究所の謎を追う！」（川崎市中原平和学級編・教育資料出版会編・一三三九円）に見習って身近な所から、戦争の傷跡を探り出し、戦争の愚かさを知ることがかりにすることは、とても大事なことだと思ふ。最後に、極最近出版された本で、八王子の旧陸軍巨大地下壕の謎に迫る「地下秘密工場」（斉藤勉著・のんぶる舎刊・一五〇〇円）という調査記録も併せて紹介しておきたい。

小園優子



△関連図書紹介▽

- 「旭高の教育」あゆみ1982-1
- 「松代大本営地下壕に国際平和公園・平和記念館を」（全国高等学校文芸コンクールで優秀賞に輝く）
- 長野県・篠の井旭高校
- 「部報」比 企「第5号」
- 「本土決戦と
- 幻の地下司令部
- 埼玉県立滑川高校郷土部
- （ピータム）」
- 「地下軍需工場建設と朝鮮人強制連行の記録」
- 「」を出版する会
- 名古屋市・本橋正男
- 「第1回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える」
- 全国交流集会報告集
- 全国交流集会実行委員会
- 「図録・松代大本営」
- 「幻の大本営の
- 秘密を探る」
- 長野県・和田 昇編著
- 「平和のために」3
- 「学び、調べ、表現する」
- 東京都・森田俊男編著

「マツシロへの旅」

―松代大本営

ガイドブック

長野市・松代大本営の

保存をすすめる会

「兵庫と朝鮮人」

―祖国解放40周年を

記念して

兵庫朝鮮人関係研究会編著

「沖繩」

旧海軍司令部壕の軌跡

沖繩・宮里一夫編著

「戦史叢書 大本営」

海軍部・連合艦隊(6)(7)

防衛庁防衛研究所戦史室著

朝雲新聞社

「連合艦隊の最後」

伊藤正徳著

文芸春秋新社

「連合艦隊作戦室から」

みた太平洋戦争

中島親孝著

光文社

「海軍を斬る」

―帝国海軍の内なる敗因―

「日米情報戦記」

―日米情報戦争実践記録―

実松 讓著

図書出版社

「海軍施設系技術官の記録」

・記録刊行委員会

昌平堂印刷

「慶應義塾百年史―中巻―」

慶應義塾

第三回総会

への誘い

日時 四月二〇日午後二時より

場所 藤山記念館大会議室

総会にはビデオ上映と

記念講演があります。

○ビデオ(二時～二時半)

「松代大本営」

○総会(二時四〇分～三時四〇分)

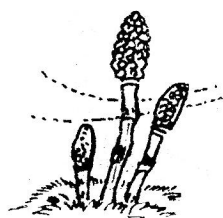
○記念講演(三時四〇分～五時)

「謀略秘密基地」

登戸研究所の

謎を追う

この機会をお見のがしなく



恒編集後記

◆保存の会の結成から早くも1年がたち、会報も第10号になりました。

これも会員の皆さんの暖かい御支援のおかげです。

◆原稿も毎回多くの方々から頂きました。

◆これからも、地下壕の事だけでなく、戦争の体験、或は湾岸戦争についての感想など、お寄せ頂ければと思います。

◆会員も徐々に増え現在三十八名となりました。

◆これまでの活動によって、日吉台地下壕と保存の会の存在が人々に広く知られ、関心を持つ人も多くなりました。

◆私達の運動が、大きく広がっていく事を願いながら、会報の原稿をワープロで打ち、印刷・発送をしております。

◆お願い!! 転居の時には必ず新住所と電話番号をお知らせ下さい。

日吉台地下壕保存の会

第3回総会

日時：4月20日（土）午後2：40～3：40

場所：慶應義塾大学藤山記念館大会議室

付記：総会の前後にビデオ上映と記念講演があります。
御期待下さい。多数の御参加を御待ちしています。

◎ビデオ上映（午後2：00～2：30）

幻の大本営の謎をカメラが追う！

「松代大本営」

広島・長崎・沖縄 ……そして、ここ長野県松代にも残る、戦争の傷跡。おおい隠された歴史的事実を明らかにし、マツシロの持つ意味を問う。

大本営とは？

13キロにわたる地下壕は誰が掘り抜いたか？

強制連行にたずさわった人、強制労働をさせられた朝鮮人など、衝撃の証言が……。

◎記念講演（午後3：40～5：00）

講師：法政2高教諭渡辺賢二氏

私の街から戦争が見えた！

「謀略秘密基地

登戸研究所の謎を追う」

第2次大戦中、風船爆弾や細菌・化学兵器、偽札造りなど旧日本軍の謀略戦をしたとされる「陸軍第9技術研究所」（通称・登戸研究所）の実相に迫る。

渡辺氏は、登戸研究所の研究家でよく知られた方です。